

真宮

～神社を取り囲む「明確」だが不思議な環状列石～

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 真宮古墳群 6号墳
5. アクセス

資料番号

K19

初版：2026.1.5



1. おすすめポイント

★これほど綺麗な環状列石（ストーンサークル）は珍しいです・・・だけど不思議・・・

元は全円だった？？ 神社との関係は？ 古墳？？ 祭祀遺跡？？・・・不思議さが「おすすめ」でごめんなさい

2. 説明

枠内 参考文献1より引用 (配置はアレンジ)

真宮

倉敷市西尾地内

足守川が県道、清音真金線と交わり、それより少し下つて、右へ大きく迂回する辺り、矢部、向山、西山、日畠、西尾の各集落が囲む、南北約一二〇〇メートル、東西約七〇〇メートルの域内に、中央の鞍部で繋がる南北二つの独立丘(約六〇～七〇メートル)があり、北の丘を片岡山、南を王墓山といい、この王墓山の最南端に真宮神社が鎮まり、この宮の神殿を囲む神座(磐境)がある。

この神座の周辺域は、直ぐ東に足守川が南流し北の片岡山、南の王墓山にはそれぞれ著名な弥生期末の構築遺跡や王墓山遺跡を始めとして、ごく狭い地域に各期にわたる七十五基の古墳が分布する地域でもある。

また、西方、妙見池を取り巻く日差山の北麓、矢部大山地区も、これまた群集墳帯で有名な地である。

一方、南のすぐ近くに磐座神社の森が繁り、この宮から西南にかけて広く展開する上東遺跡を望む丘頂に、この神座は位置を占める。

この古代神座、磐境は直径約一〇メートルの正円に近く(南方一部を欠く)、現在、直接的には五一個の大小の自然石で構成されており、南方の欠如部分は後世、設けられたと考えられる、階段設置の際に取り除かれた模様で、古代には全円の環状配石の面影をしのばせる。

この磐境の特徴とするところは、環状配石の中央部に神・幣殿が設けられていることと、神殿に向かって右側に、三個の人工の手が加わったと考えられる、他の石と姿が異なり白をひく、少し長目の石が目につく。大分県安心中院町佐田の「京石」、その他、縄文期のストーン・サークルに使用されている石に、酷似の造形を示し注目される。

磐境の中央に神殿を設けた例は、全国的にもまれであり、この周辺域の立地状況(南面して緩やかな傾斜地で付近一帯は群集墳地帯)と環境からして、磐境中央部の神殿位置下部は、古墳の存在したことが推測される。

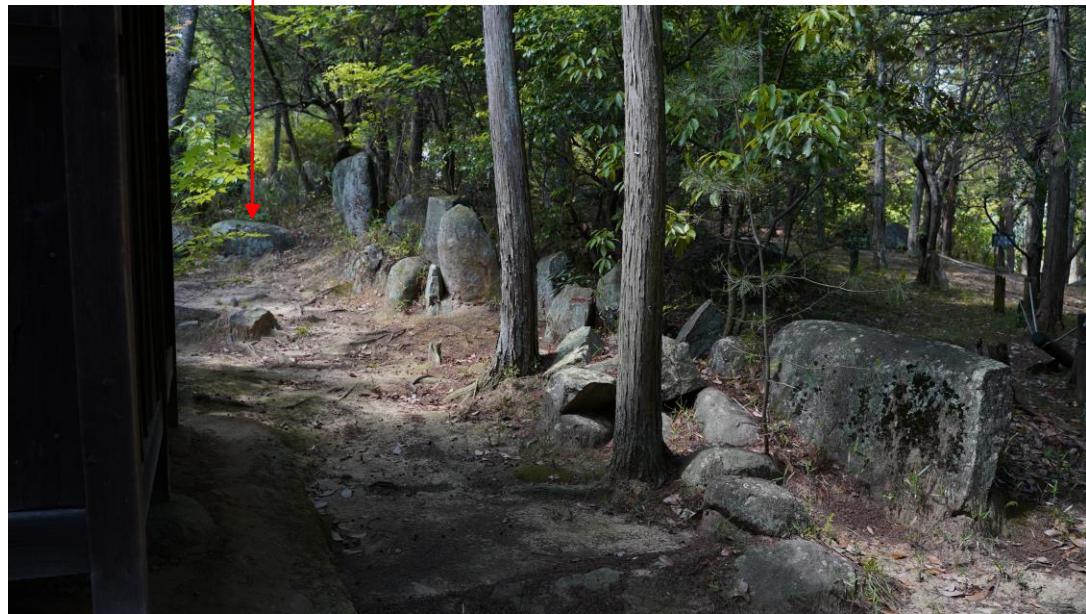
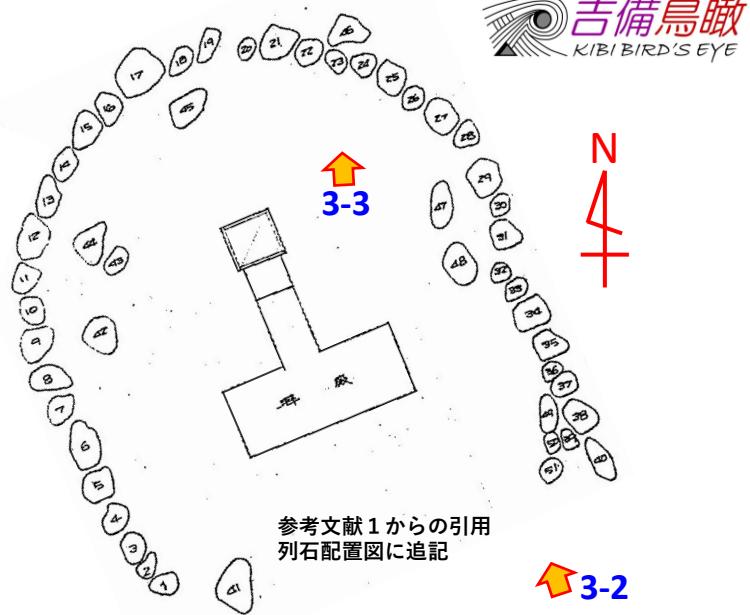
古代祭祀遺跡の部門は今なお学術が全く未介入の領域で、その個々の名称等についても、各々随意の表現を用い、従つて一貫した論拠、定義もない現況である。

3. 現地写真

2020.5.24



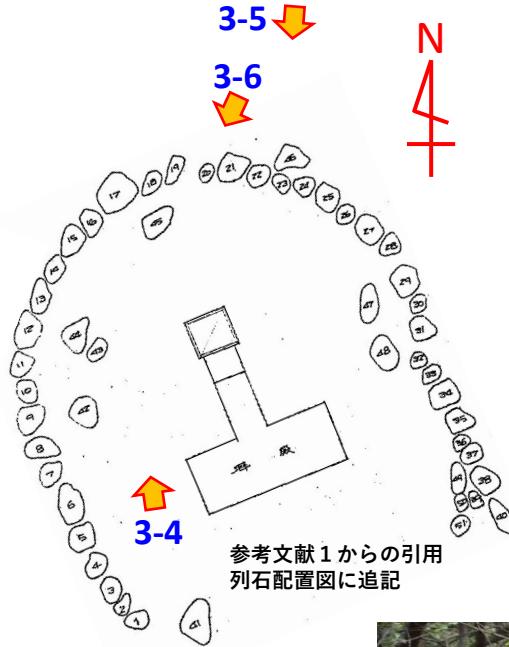
3-1



3-2



3-3



4. 真宮古墳群6号墳

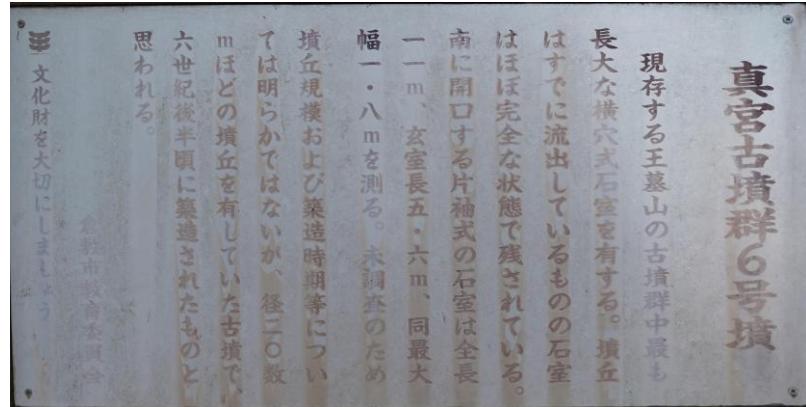
2020.5.24



4-1 6号墳（左）と真宮神社の鳥居（右）



4-3



4-2

現地説明板



4-4

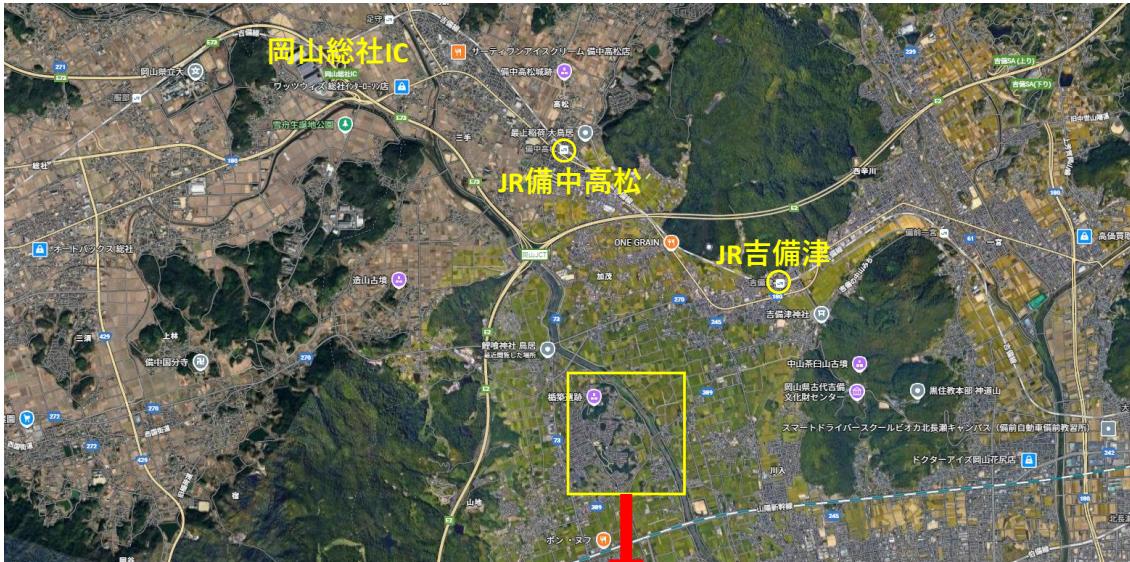
石室入口正面（南側）より

◀樅築遺跡にある王墓の岡史跡公園案内図からの抜粋に追記



4-5

5. アクセス



5-1

Google Mapに
赤黄で追記



楯築遺跡駐車場から
徒歩で約15分くらいです (約1km)

真宮磐座 (岩境)
<真宮神社>

Google Mapに
黄で追記

5-2

参考文献

- 1) 八木 便乘. 岡山の祭祀遺跡 (岡山文庫145) . 日本文教出版, 1990, 173p.